

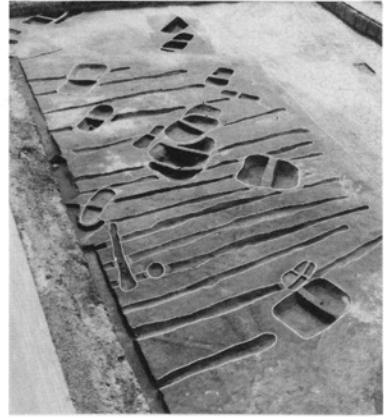
つちだ 土田遺跡

本年度の調査区は、昭和60年度に調査した廻間遺跡と土田遺跡を分ける、旧谷地形とその周辺部にあたる。今回の調査の結果、古墳時代の溝と、中世の方形土壇群が検出された。

溝は、発掘区東南に展開する砂堆上で、北西から東南の方向に、50cmから100cmの間隔で並行した形で16条が検出された。溝からは古墳時代初頭の土師器が少量出土した。

中世の方形土壇は、35基検出し、いずれも主軸が西向き、或るいは北向きの一定の方向性を呈している。方形土壇に伴う遺物として、S K03から南部系の山茶碗と北部系の山皿、S K29から北部系の山茶碗のほぼ完器が出土した他、遺物量そのものは少なかった。

(平田睦美)



調査区全景（北より）



調査区位置図及び遺構配置図1/2000